

福祉保健生活環境委員会 県内所管事務調査の概要

【令和元年6月3日（月）】

◆調査箇所：中部振興局、中部保健所、中部保健所由布保健部、消費生活・男女共同参画プラザ、食肉衛生検査所

＜概要＞

中部振興局、中部保健所、中部保健所由布保健部、消費生活・男女共同参画プラザ及び食肉衛生検査所から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、交通安全、健康寿命日本一に向けた取組、児童虐待の対策、危機管理機能の充実、おおいたうつくし作戦の推進、消費者教育・啓発活動、女性の活躍推進事業、県民活動支援、と畜場法に基づく獣畜の検査等）の概要等について調査を行った。



＜主な質疑等＞

- ・アイネスと警察本部との連携体制について
- ・LGBTへの対応について
- ・大分市との連携について

◆調査箇所：県防災センター

＜概要＞

平成28年の熊本地震の検証結果等を踏まえ、さらなる県庁の防災体制の強化を図るため、令和元年5月、県庁舎本館6階に災害対策本部、防災センター及び防災局を移設した。

新災害対策本部、防災センターの面積は従来の約2倍に拡張し、大型タッチパネルPCなどの最新設備を有するほか、災害発生時に自衛隊等の防災関係機関や他県からの災害支援部隊が活動できるスペースも備えられている。

今回の調査では、センター内設備の視察を通じて、防災体制の現状等について調査を行った。



＜主な質疑等＞

- ・市町村との災害情報の共有方法について
- ・災害対策本部の代替設備について
- ・おおいた防災アプリとの連携について

◆調査箇所：おおいた動物愛護センター

＜概要＞

平成31年2月に開館したおおいた動物愛護センターを訪問し、センターの運営体制、業務内容、動物愛護教育事業等について説明を受け、質疑応答を行うとともに、センター内の動物保護棟やドッグランスペース等の調査を行った。



＜主な質疑等＞

- ・殺処分の現状について
- ・地域の猫対策について
- ・ボランティアへの支援について

◆調査箇所：公立大学法人大分県立看護科学大学

<概要>

看護科学大学から、大学の概要、組織及び職員の配置状況、財政状況、入学定員、平成31年度入学生状況、平成30年度卒業生の進路状況及び今年度の重点事業等について説明を受け、質疑応答を行うとともに、授業の様子や実習室の設備状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・卒業生の県内就職状況について
- ・NPコースの充実について

◆調査箇所：大分県立病院

<概要>

県立病院から、組織・職員の配置状況、施設の概要、医療提供体制及び経営状況、第四期中期事業計画等について説明を受けるとともに、総合周産期母子医療センター、患者総合支援センター及び精神医療センター（仮称）建設現場の調査を行った。



<主な質疑等>

- ・総合周産期母子医療センターの体制について
- ・経済的困窮など社会的リスクを抱える妊産婦、新生児の現状、支援体制について
- ・医療機器等の更新の考え方について

【令和元年6月5日（水）】

◆調査箇所：こども・女性相談支援センター、こころとからだの相談支援センター

<概要>

こども・女性相談支援センター及びこころとからだの相談支援センターから、組織・職員の配置状況、管内の概況及び本委員会が所管する主要な事務（児童虐待・非行等の相談・支援、里親委託の推進、DVに係る相談対応、障がい者に関する相談、こころの緊急支援活動等）の概要について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・こども・女性相談支援センターの体制強化後の状況について
- ・長期にわたって、ひきこもり状態にある方への支援体制について

◆調査箇所：大分県不妊専門相談センター（由布市挾間町）

<概要>

平成13年に開設。開設当時は県立病院に設置していたが、平成21年から現在の大分大学医学部付属病院に設置している。

開設当時は電話相談が中心だったが、相談者のニーズに応じて出張相談や土曜日の開設、不妊に悩む当事者同士が集う会の設立など業務内容も多岐にわたり、現在は胚培養士による医学的見地からの相談に加え、臨床心理士による心理相談など、からだと心の両面からのケアを行っている。

今回の調査では、相談体制の状況や相談内容等について調査を行った。

<主な質疑等>

- ・ 県内不妊治療機関との連携について
- ・ SNS等を活用した相談体制の拡充について
- ・ 相談者の内訳、相談内容等について



◆調査箇所：消防学校

<概要>

消防学校から、組織・職員の配置状況、施設の概況及び本委員会が所管する主要な事務（消防職員・消防団員に対する基礎的な教育訓練や専門的な教育訓練、消防職員・消防団員幹部に対する教育訓練などの実績・計画等）の概要について説明を受けるとともに、新たに採用された消防職員の初任教育訓練を調査した。

<主な質疑等>

- ・ 初任教育について
- ・ 消防団員の養成について



◆調査箇所：二豊学園

<概要>

二豊学園から、組織・職員の配置状況、学園の設備や運営の概要（児童の生活態度・入退所の経路及びその理由、支援の概要、退所児童の状況、自立支援等）について説明を受けるとともに、寮舎の施設・設備等の調査を行った。

<主な質疑等>

- ・ 児童相談所との連携体制について
- ・ 卒業後のフォローアップ体制について
- ・ 職員の専門性について



◆調査箇所：衛生環境研究センター

<概要>

衛生環境研究センターから、組織や施設の概況及び本委員会が所管する主要な事務（食品衛生・自然毒等に関する試験検査、感染症・食中毒等に関する微生物学的検査、大気汚染・ダイオキシン類・悪臭や環境放射能に関する測定・分析等、環境水・工場排水等に関する試験検査等）について説明を受けるとともに、センター屋上に設置している環境放射線モニタリングシステムの調査を行った。



<主な質疑等>

- ・センターの予算について
- ・温泉の泉質分析について

【令和元年6月10日（月）】

◆調査箇所：北部振興局、中津児童相談所、北部保健所、北部保健所豊後高田保健部

<概要>

北部振興局、中津児童相談所、北部保健所及び北部保健所豊後高田保健部から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、交通安全、児童虐待における対応と家族支援、健康寿命日本一に向けた取組、危機管理機能の充実、おおいたうつくし作戦の推進等）の概要等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・児童相談所の職員配置状況について
- ・児童福祉司や児童心理司、兼務保健師の業務状況について
- ・里親等登録者数の確保に向けた課題について

◆調査箇所：社会福祉法人玉林会 泉光こども園（宇佐市大字下庄）

<概要>

泉光こども園は、昭和27年保育園として認可を受けて開設され、平成27年からは認定こども園となり、感性豊かな子どもを育てる教育を目指している。また、当園では保育士確保のため、保育士が休暇や休憩時間を取得しやすい環境づくり及び登降園管理システムなどのICTを活用した業務の効率化などを低コストで実現し、保育士が継続して働ける環境整備に努めている。

今回の調査では、当園の先進的な働き方改革の取組等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・アプリなどのICT導入にあたっての課題について
- ・働き方改革取組後の保育士の感想について
- ・保育士確保対策について

◆調査箇所：なかつ病児保育室セカンド・맘（中津市蛸瀬）

<概要>

中津市内には、これまで病児保育施設がなかったが、高まる病児保育ニーズを受け、平成31年4月、のまさ小児科に併設して、なかつ病児保育室セカンド・맘を開設した。利用定員は5名、主な設備として保育室のほか、院内感染を防ぐための隔離室を3部屋備えている。なお、セカンド・맘の由来は、仕事等で休みが取れない保護者に代わる「2番目の母」である。

今回の調査では、開設までの経緯や開設後の苦労や課題等について調査を行った。



<主な質疑等>

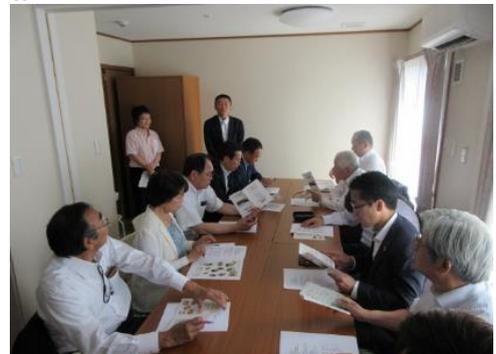
- ・ 開設後の利用状況について
- ・ 今後の課題、改善点について

◆調査箇所：小規模多機能ホームだいごぼう（中津市大悟法）

<概要>

当該施設は、介護保険法による地域密着型サービスの一つで、要介護となった高齢者が、いつまでも住み慣れた家、地域で生活を続けられるよう、利用者の状態や必要に応じて「通い」、「泊まり」、「訪問」サービスを柔軟に組み合わせて24時間、365日の在宅介護サービスを提供する施設として、平成31年3月に開設された。運営主体は市内の福祉用具のレンタル、販売等を営む法人である。

今回の調査では、施設運営にあたっての課題や改善点等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ 運営にあたっての課題や行政への改善要望について
- ・ 職員の給与、福利厚生について
- ・ 介護負担軽減に向けた介護ロボット等の導入について

【令和元年6月11日（火）】

◆調査箇所：刃連町ひまわり会（日田市刃連町）

<概要>

日田市では、介護予防と相互扶助の地域づくりを目指すため、高齢者が容易に、気軽に通うことのできる「週一通いの場づくり事業」を進めており、今後も市内各所に場づくりを進めていく予定である。

今回の調査では、当該事業により設立され、特に地域住民の参加率も高く活動実績も豊富な刃連町ひまわり会を訪問し、参加者の方々との意見交換を通じて介護予防事業の効果や改善すべき課題等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ 地域住民の参加率向上に向けた取組について
- ・ さらなる通いの場の活性化のために必要な行政の支援について
- ・ 利用者が感じる心身の変化について

◆調査箇所：西部振興局、西部保健所

<概要>

西部振興局、西部保健所から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、九州北部豪雨での応急対応等、健康寿命日本一に向けた取組、生活困窮者自立支援の推進、危機管理機能の充実、おおいたうつくし作戦の推進等）の概要等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・管内市町の合計特殊出生率が県内上位の要因について
- ・旅館、ホテル等へのHACCPの普及状況について

◆調査箇所：社会福祉法人福寿会 養護老人ホーム日田延寿寮（日田市大字石井）

<概要>

これまで日田市が設置、運営していた施設の老朽化に伴い、公募選定された社会福祉法人福寿会が平成31年4月に開設し、運営主体となった。

施設は定員50名、プライバシーに配慮した全室個室対応している。

今回の調査では、施設管理、運営の課題、外国人材の受入状況等について説明を受けるとともに、施設利用者の方々との意見交換を通じて利用状況や改善すべき点等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・外国人材の介護職受入れの状況について
- ・施設での看取り対応について

◆調査箇所：OITAえんむす部出会いサポートセンター（大分市高砂町）

<概要>

当該センターは、結婚を希望する県民の出会いの場づくりのため、大分市のOASISひろば21内に設置され、調査日時点の入会申込者数（累計）は1,494人、うち成婚に至った方々が5組である。また、今年度からは県内各地で相談や入会申込みができる「出張えんむす部」の取組も始めたところ。

今回の調査では、センター運営にあたっての課題や今後の展望等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・センター運営にあたっての課題について
- ・入会申込者の傾向について

【令和元年6月18日（火）】

◆調査箇所：東部振興局、東部保健所、東部保健所国東保健部

<概要>

東部振興局、東部保健所及び東部保健所国東保健部から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、交通安全、観光振興、健康寿命日本一に向けた取組、危機管理機能の充実、おおいたうつくし作戦の推進等）の概要等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ 姫島村の観光振興について
- ・ 健康寿命日本一の取組について

◆調査箇所：おおいた姫島ジオパーク 天一根 ジオサイト（姫島村）

<概要>

ジオパークに関する村内各団体、県等で構成するおおいた姫島ジオパーク推進協議会が中心となり、ジオパークの保護・保全はもとより、教育・研究、普及啓発、観光等の地域活性化に取り組んでいる。

また、本年10月31日～11月5日にかけて開催される第10回日本ジオパーク全国大会2019おおいた大会に向けた取組も進めている。

今回の調査では、ジオ学習や情報発信の拠点施設である「天一根」や拍子水などのジオサイト視察を通じて、ジオパークの取組状況等の調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ 第10回日本ジオパーク全国大会2019おおいた大会の準備状況について
- ・ 観光との連携について

【令和元年6月26日（水）】

◆調査箇所：フードバンクおおいた（大分市大津町）

<概要>

フードバンクおおいたは、子どもやひとり親世帯の貧困と食品ロスという二つの大きな問題を結びつけ、その解決の一翼を担うために平成28年6月に設立された。企業や団体、個人と連携して余剰食物を受け入れ、生活困窮世帯や子ども食堂へつなぐ取組を進めており、大分県社会福祉協議会が運営を担っている。

今回の調査では、フードバンクおおいたの取組状況、今後の取組等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ 余剰食品の受入れから各団体への提供までの流れについて
- ・ フードバンクの運営を大分県社会福祉協議会が担う意義について
- ・ 運営にあたっての課題について

◆調査箇所：太平洋セメント株式会社 大分工場（津久見市合ノ元町）

<概要>

循環型社会の形成に向け、廃棄物を循環資源と捉え、限りある資源を有効活用するため体制整備を進める必要があることから、平成29年2月に、太平洋セメント・団体、市町村、県をメンバーとする「おおいた資源循環推進協議会」を設置し、市町村等のごみ処理施設から発生する焼却残渣（主灰・飛灰）の全量セメント資源化の仕組みづくりについて、関係者が連携・協力して取り組んでいる。

今回の調査では、工場内各設備の視察を通じ、セメント資源化行程の調査を行った。



<主な質疑等>

- ・プラスチックゴミの受入状況について
- ・災害廃棄物の受入れについて

◆調査箇所：南部振興局、南部保健所

<概要>

南部振興局、南部保健所から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、交通安全、健康寿命日本一に向けた取組、危機管理機能の充実、おおいたうつくし作戦の推進等）の概要及び祖母・傾・大崩ユネスコエコパークを活用した観光振興等について調査を行った。



<主な質疑等>

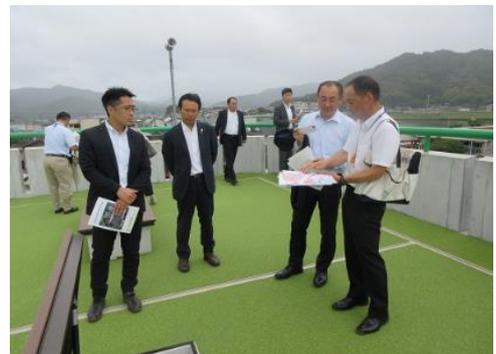
- ・南海トラフ巨大地震を見据えた防災体制について
- ・佐伯市との連携状況について

◆調査箇所：池船津波避難タワー（佐伯市池船町）

<概要>

佐伯市は、南海トラフ巨大地震が発生した場合、最大津波高7.4mの津波が想定されており、海拔が低い市街地のほぼ全域が浸水想定区域となっている。その中でも、タワー建設地域は、周囲に緊急避難場所として利用できる山や高い建物等がない「特定津波避難困難地域」であるため、平成30年12月、同地域に津波避難タワーを整備した。今後は、市内他地域にも同様の避難タワーや人工高台が整備される予定である。

今回の調査では、タワー内の仮設トイレや更衣室等の設備を視察調査した。



<主な質疑等>

- ・建設に係る財源内訳について
- ・南海トラフ巨大地震に備えたソフト対策の取組について
- ・平時の活用策について

◆調査箇所：大分県里親会里親サロン（佐伯市中村南町）

<概要>

要保護児童が心身ともに健やかに成長できる里親委託を推進するため、里親の各種支援を行っている。

支援の一つである里親サロンは、里親の孤立、抱え込みの防止や養育の透明性を確保する目的で、大分県里親会に委託し県内6ブロックで実施している。

今回の調査では、県南ブロック里親会の方々との意見交換を通じて、里親の方々の思いや行政へ求める支援などについて調査を行った。



<主な質疑等>

- ・思春期を迎えた子どもとの関わり方について
- ・里親サロンの運営、活動状況について
- ・里親登録者数の増加に向けた方策について

【令和元年6月27日（木）】

◆調査箇所：おおいた豊後大野ジオパーク ジオサイト緒方宮迫東石仏・西石仏、原尻の滝（豊後大野市緒方町）

<概要>

ジオパークに関する市内各団体、県などから構成するおおいた豊後大野ジオパーク推進協議会が中心となり、ジオパークの保護・保全はもとより、教育・研究、普及啓発、持続可能な発展のための活動等に取り組んでいる。

また、本年10月に開催される第10回日本ジオパーク全国大会2019おおいた大会に向けた取組も進めている。

今回の調査では、各ジオサイト視察を通じて、ジオパークの取組状況等の調査を行った。



<主な質疑等>

- ・市内小中学生へのジオ教育の状況について
- ・ジオガイドの養成について
- ・全国大会の準備状況について

◆調査箇所：竹田市久住町石田地区小規模給水施設（竹田市久住町）

<概要>

石田地区の給水施設は、配水管が一部漏水していたほか、現況配水池が容量不足で、地域住民から安定した生活用水確保を望む声があったことから、「小規模給水施設普及支援事業」を活用し、貯水槽及び送配水管を新設した。

今回の調査では、小規模給水施設普及支援事業の概要及び県内の活用状況の説明を受けるとともに、新設後の現地を視察した。



<主な質疑等>

- ・小規模給水施設の設置費用について
- ・設置後の管理費用、地元負担について

◆調査箇所：豊肥振興局、豊肥保健所

＜概要＞

豊肥振興局、豊肥保健所から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、交通安全、健康寿命日本一に向けた取組、危機管理機能の充実、おおいたうつくし作戦の推進等）の概要等について説明を受けた。



＜主な質疑等＞

- ・自殺対策について
- ・管内の人口減少の状況について

◆調査箇所：防災航空隊

＜概要＞

防災航空隊から、組織・職員の配置状況、施設の概要、機体を更新し平成29年10月に運行を開始した防災ヘリ「とよかぜ」の運航体制、予算及び運行状況並びに熊本地震・九州北部豪雨を踏まえた県央飛行場機能強化事業の概要（燃料タンクの増設及びヘリ駐機スポットの整備）等について説明を受けるとともに、防災ヘリコプターの機体及び装備品等について調査を行った。



＜主な質疑等＞

- ・県央飛行場の管理体制について
- ・ヘリの運航体制、パイロットの確保について
- ・ドローンの活用について